

障害者 スポーツ

スポーツをはじめよう!

「最初の第一歩」に! 誰でも気軽に参加できるスポーツです
障害者スポーツの中には、「バレーボール」と名のつく種目がいくつかありますが
今回取り上げるのは、そのなかでも新しくできた「ふうせんバレーボール」です。

ふうせんバレーボール

「ふうせんバレーボール?」と思う方がほとんどだと思います。

このスポーツの歴史はまだ新しく、1989年に北九州で生まれたまだ新しいスポーツです。障害者スポーツといえば、障害者だけでプレーする競技が多く、また、自分で動けない人のスポーツは非常に少ないのが現状ですが、この「ふうせんバレーボール」は、障害のある人とない人とが、同じコートの中で「対等な立場の選手」として参加できるスポーツなのです。



気軽に楽しめるのが
このスポーツの魅力

障害者スポーツの中には、「バレーボール」と名のつく種目がいくつかあります。

フロアバレーボール

視覚障害者をメインに考えられた競技です。

ボールを床に転がし、低く張ったネットの下をくぐらせて、得点を競う競技です。

シッティングバレーボール

下肢障害者をメインに考えられた競技で、名前のとおり、座って行う競技です。日本ではあまり普及していませんが、欧州や中近東では、非常に盛んな競技です。(パラリンピック正式種目)

しかしながら、上の2つのバレーボールの場合、普通のバレーボールを使用するので、突き指等の怪我の可能性がありますが、この「ふうせんバレーボール」では、ゴムふうせんを使用しますので、怪我の可能性は非常に少なくなります。その上、ラリーの中で、最低1回はボールに触れなければならない、というルールがあるので、競技中にボールに触ることがなかったとか、みんなで競技をしている実感がない、ということはありません。プレーヤー全ての人々が楽しめる競技なのです。

障害がある、なしに関わらず、誰でも気軽に参加できるスポーツですので、スポーツへの参加の「最初の第一歩」には、もってこいの競技です。

誰でも楽しく
気軽にできます

ふうせんバレーボール ルール

用具	コート バドミントン用のコートとネットを使用 ボール 鈴入りの直径約35~40cmのゴムふうせんを使用
チーム	1チーム6人 障害のある選手(ハンディプレーヤー)3名 障害のない選手(アドバンテージプレーヤー)3名 ハンディレベルには4つの判定基準があります。
進行	1 ボールが自分のコートに入ってから、規定打数10回以内で相手コートに戻します。 2 規定打数10回の中で、競技者6名全員が最低1回はボールに触れなければなりません。 3 規定打数の間に1人が2回までボールを打つことができます。 4 競技者のポジションは自由。 5 1セットマッチ15点制、20分間(ラリーポイント制)

「ふうせんバレーボールを始めてみようかな。」と思った方は、茨木市障害者生活支援センターで練習を企画していますので、一度お問い合わせ下さい。

茨木市障害者生活支援センター

TEL 0726(24)8653 FAX 0726(24)8656 担当:白井



みんないきいきと
しています

このページの問い合わせ先

大阪府障害者スポーツ振興協会 大阪市中央区大手前2丁目 大阪府健康福祉部障害保健福祉室在宅課内
TEL 06(6941)0351 2460 FAX 06(6944)6674《24時間受信可》 E-mail shohofukushi@sbox.pref.osaka.jp